

各位

2026年1月31日

日本老人福祉財団

武庫川女子大学の実践学習プロジェクトに協力

～介護施設で働く魅力を採用 Instagram で発信～

介護付有料老人ホーム〈ゆうゆうの里〉を全国7か所で運営する一般財団法人日本老人福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：夏目芳宏）は、武庫川女子大学（兵庫県西宮市、学院長：高橋享子）経営学部が行う実践学習の2025年度後期授業に協力し、2025年10月から12月にかけて、学生6人を対象としたプログラムを実施しました。



実践学習とは、武庫川女子大学経営学部の学生が、企業や団体、地方自治体などと連携し、社会課題を直接学びながら新しい視点を得ることを目的としたプログラムで、インターンシップ、サービスラーニング、フィールドワークを通じて行っています。

日本老人福祉財団は、入居率95%を超える高い評価を得ている一方で、法人としての認知度向上や、介護・福祉分野における人材不足という社会的な課題にも直面しています。とりわけ若い世代の就活生に、介護・福祉の仕事の魅力や働きがいを知ってもらい、より多くの方にこの分野を志してもらうため、2025年より財団公式の採用Instagramを開設しています。

こうした背景から、昨年度に続き武庫川女子大学の実践学習に協力し、「介護の魅力を学生の視点で発信してほしい」という思いのもと、Instagramでの魅力発信を想定したプロジェクトを立ち上げました。本プログラムでは、学生6人が就活生目線で、リアルなInstagram投稿を制作する取り組みを行いました。

プログラムではまず、就活生に興味・関心を持ってもらい、介護・福祉に対するイメージを変えること、さらに〈ゆうゆうの里〉で働きたいと考える人を増やすことを目的に、Instagramのコンセプトを企画書としてまとめました。2025年11月には、神戸と大阪の〈ゆうゆうの里〉を訪問し、施設見学、介護体験、入居者や職員にインタビューを実施しました。



写真左からグループワーク、アスレチックジム、食事配膳の様子

インタビューでは、入居者から「今までの生活スタイルが維持できる」「もっと早く入居すればよかった」、また職員からは「小さなことでも『ありがとう』と言われることにやりがいを感じる」といった前向きな声が多く聞かれました。

12月19日の最終報告会では、学生たちが実際に感じた〈ゆうゆうの里〉の魅力を反映したInstagram投稿案が発表されました。投稿デザインは、〈ゆうゆうの里〉のあたたかさや優しさをイメージしたオレンジ系で統一され、中には、感謝の言葉が日常的に交わされる様子を、AIで作成したイラストでストーリー性をもたせて表現したものも含まれています。

学生からは、

「これまで見たことのある介護施設とは違い、高級感がありながらも選ばれる理由がわかった」

「介護は『大変さ』よりも、人と関わる中で心が動く瞬間が多い仕事だと感じた」

「年間休日120日や資格取得支援、エルダー制度など、職員が働きやすい環境が整っていると感じた」

といった感想が寄せられました。

今回の実践学習を企画・実施した日本老人福祉財団人事部の担当者は、次のようにコメントしています。

「学生たちは、アスレチックジムやプール、サークル活動に参加する入居者の姿や、入居者と職員のあたたかい関係性に多くの発見があったようです。〈ゆうゆうの里〉の魅力を広く伝え、就活生が『働いてみたい』と思える投稿を目指し、真摯に取り組んでくれました。今回は、実際のエピソードをAIで漫画化することで、入居者と職員の大切な物語を身近に感じてもらえるよう工夫しています。」

本プログラムを通じて、〈ゆうゆうの里〉における入居者の暮らしや職員との関わり、そして介護の仕事が持つ価値を、学生ならではの視点で発信することができました。

日本老人福祉財団では、今後も次世代を担う人材との連携を通じて、介護・福祉の現場の魅力や働く意義を広く社会に伝えてまいります。

学生が制作したInstagram投稿は、1月17日より、採用公式Instagramにて順次公開しています。ぜひ下記のURLまたはQRコードからご覧ください。

URL:https://www.instagram.com/yuyunosato_recruit/

QR コード :



学生が制作した投稿の表紙
(@yuyunosato_recruit)

以上